

令和 7 年度 地域連携推進会議 議事録

日付: 令和 7 年 12 月 5 日 (金)

時刻: 13:00～15:00

場所: とみがおか会議室

① 参加者

《地域連携推進委員》

- ・利用者（体調不良の為、不参加）
- ・利用者家族代表 境 浩次郎 様（父） 容子様（母）
- ・北広島市保健福祉部福祉課 角田 紘希 様
- ・北広島市社会福祉協議会事務局次長 風間 公彦 様
- ・社会福祉法人長沼陽風会 陽風施設長 田邊 義勝 様
- ・社会福祉法人緑伸会 常務理事・総合施設長 小貫 晃一 様
- ・とみがおか 小嶋施設長 佐原課長 菅原係長 山岸係長 畑係長（書記）

《参加者》

- ・法人事務局 森事務局長
- ・居住系サービス事業統括 北口部長
- ・利用相談サービス連携センター 片平課長
- ・グリーンパーク北ひろ 福田課長

② 会議次第

◆開会あいさつ～施設内見学

小嶋施設長挨拶からはじめ参加者の自己紹介を行っている。自己紹介終了後はとみがおか館内の見学を実施。見学後の参加者の反応として、『とみがおかが建てられ長い年月が経っているが、館内が綺麗に保られている』とお話があった。

◆地域連携推進会議の手引き（添付資料）

とみがおかにおける地域連携推進会議の手引き資料をもとに『目的』『構成員選出の意図』『今後の活動について』説明を行っている。

◆北ひろの森の趣旨説明（添付資料）

当法人の事業計画の一つである北ひろの森事業について資料をもとに説明を行っている。

事業発足の経緯については、小嶋施設長から説明

- ① コロナ前は親の会（緑の郷）が定期的に活動を行ってきたが、ご家族の高齢化に伴う活動の停滞や役員選出による次の担い手がいない現状である
- ② 事業運営の透明性や事業、支援の質の確保していく為に、利用者ご家族、地域連携推進委員を含めて定期的な交流活動を実施。

上記内容説明を行い、地域連携推進委員全員より賛同を得られている。

◆とみがおかの概要説明（添付資料）

とみがおかの概要については、地域連携推進会議資料をもとに説明を行っている。

◆事業計画・意思決定支援（権利擁護）の取り組みについて（添付資料参照）

令和7年度とみがおか事業計画資料をもとに説明を行っている。また、意思決定支援の取り組みについて参加者の方へ冊子の配布し、冊子を基盤となり職員がいつでも読み返せることにより、現状の支援に対して振り返りができるツールとして継続して冊子作りを行っていく。

◆上半期収支報告（添付資料）

令和7年度地域推進会議収支報告資料をもとに上半期のとみがおかの収支を説明している。

◆質疑応答

角田様より

上半期の収支を見た時にプラスになっている現状を報酬改定による収支の影響を想定していたのか？

→重度加算による職員基準が緩和されたことによって、ほぼ全員の加算が取れる構図になってきた。重度の利用者様の支援を行ってきた中で報酬改定前は支援と加算が釣り合わないのではないかと感じていた。

◆本会議に際して参加者からの感想

角田様より

会議に参加させて頂き、勉強になり来年度以降は他の職員も参加させていきたい。厚生労働省からは地域移行を進めるようにとお話がある。利用者様のニーズに寄り添った形で支援を行ってほしいこと。今回の会議で利用者様が安心、安全に生活を送ることができていることが感じる事ができた。

◆風間様より

職員の意識という部分で職員が変われば利用者様が変わってくるという言葉が響いた。意思決定支援を中心に利用者様やご家族の選択肢の幅を広げていく取り組みを継続してもらいたい。

◆境様より（母）

今回の会議に参加することができて良かった。息子二人が任せっきりになってしまっている部分がある為、申し訳ない気持ちがある。

◆境様より（父）

今後も外国人採用を行っていくのか？法人として何%の割合で採用していくのか？

→5年後の介護福祉士の試験を取得できないことにより、帰国しないといけいない背景があることから今後定期的に採用をしていく予定。また法人の総職員数約400名となっており、10%は外国人の比率になってくる。

◆小貫様より

とみがおかの長い歴史の中で制度が変わっていくことに対して、法人としてアップグレードしてきた背景が会議に参加し感じる事ができた。意思決定支援においても根拠を持ちながら支援に繋げていくことの大切さを改めて感じた。

◆田邊様より

施設内の見学を踏まえて、参考させて頂くことがたくさんあり、勉強させて頂いた。とみがおかの冊子をもとに自身の施設職員に対して勉強会を開いている。今後もとみがおかとは協力体制を組みながら進めていきたい。

